



ThreeBond



2022

# JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.1/2

## RACE REPORT



FUJI SPEEDWAY



# 2022 シーズン開幕

2022年、全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開幕戦（第1戦及び第2戦）が、4月9日（土）～10日（日）にかけて静岡県富士スピードウェイで開催された。今シーズンは、開幕戦、第6大会、最終戦が1大会2レース制で開催される。また、予選フォーマットや供給されるタイヤの仕様なども変更されている。チームは、道上龍監督の下、ドライバーに福住仁嶺（以下、福住選手）選手を迎えるとともに、トラックエンジニアに新井凌氏を起用、昨年までトラックエンジニアを務めていた伊与木仁氏をチーフエンジニアとして新体制で3年目のシーズンを迎えた。

## 公式予選

週末の富士スピードウェイは春らしい好天に恵まれたが、土曜日は朝から強い風が吹く難しいコンディションとなった。1大会2レース制のレースウィークは、土曜日午前中に第1戦の公式予選、午後に決勝レース、日曜日午前中に第2戦の公式予選、午後に決勝レースというスケジュールでイベントが進行する。また、今シーズンは昨年までQ1、Q2、Q3と3段階のノックアウト制で行われていた公式予選がQ1、Q2の2段階のノックアウト制に変更となった。Q1セッションA組に出走した福住選手は、タイムアタック中、わずかなミスがあったものの1分22秒412を記録しA組7番手につけたが、Q2へ進出できる6番手には0.162秒足りず、この時点でスターティンググリッドは出走21台中13番手と決まった。

## 決勝レース

4月9日（土）午後2時30分、ホームストレート上に強い追い風が吹く状況で決勝レースがスタートした。チームはこのコンディションでストレートスピードを伸ばすためにダウンフォース量を減らすセッティングで臨むと、第1コーナー進入時のブレーキングに支障が出るため、ダウンフォースを増やす方向でマシンにセッティングを施すとともに、予選用ギアセットを決勝用ギアセットに組み直して福住選手をコースに送り出した。福住選手はスタートシグナルとともに好加速、前方でスタートに失敗した車両もいる中、順位を9番手にまで上げて第1コーナーへ飛び込んだ。ところがコカ・コーラコーナーの進入時に後続車が追突、福住選手は左リヤタイヤを壊してしまいスロウダウンを余儀なくされた。車両に大きなダメージはなく、走行そのものは続けられる状況ではあったがピットまでは距離があり、タイヤがバーストした状態で走り続ければサスペンションやフロアパネルを引きずってダメージを悪化させる可能性があったため、福住選手は走行を断念しコース脇にマシンを止めてレースを終えた。

## 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#15 笹原 右京 1' 21.404
2	#53 佐藤 蓮 1' 21.668
3	#20 平川 亮 1' 21.708
13	#12 福住 仁嶺 1' 22.412 (Q1 敗退)



## リベンジの第2戦

4月10日(日)、前日の強く冷たい風も収まり、春らしい晴天のなか、第2戦が前日に続いて静岡県富士スピードウェイで開催された。前日の開幕戦では決勝レースでレーシングアクシデントによるリタイヤを余儀なくされ、満足のいくレースができず、加えてデータの収集も含め十分な準備ができない状態で第2戦を迎えることとなった。

### 公式予選

好天の富士スピードウェイは前日より気温、路温共に上昇したが、風は弱まったコンディションを考慮し、チームは前日よりフロントのダウンフォースを軽減する方向でセッティングを行い、福住選手をQ1セッションA組に送り出した。福住選手は前日のラップタイムを上回る1分22秒238を記録したがA組の順位は7番手に留まり、Q2進出はならなかった。この結果、福住選手のスターティンググリッドは14番手となった。

### 決勝レース

第2戦の決勝レースは気温23度、路温32度と初夏を思わせるコンディションの中、日曜日午後2時30分から始まった。前日の決勝レースではレース後半リヤタイヤの消耗が進む傾向が見られたため、チームは予選に引き続きフロントのダウンフォースを減らし、リヤタイヤを温存するセッティングでマシンを仕上げた。

スタートした福住選手は、スタートに出遅れる車両にも助けられて1周目を終えるまでにポジションを11番手にまで上げたが、レース序盤からコーナーのターンインでオーバーステア、立ち上がりではアンダーステアとなるマシンのバランスに苦しみ、思うようにペースが上げられない状況に陥った。この結果、後方からのオーバーテイクを許してしまい、順位は徐々に落ちていった。このような状況を鑑み、当初はピットウィンドが開く11周目に予定していたタイヤ交換を17周目に戦略変更したが状況は変わらず、福住選手はタイヤ交換後に阪口晴南選手をオーバーテイクするものの、自分のペースで残りの周回を淡々と重ね、16位でチェッカーフラッグを受けた。

### 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#1 野尻 智紀 1' 21.522
2	#37 宮田 莉朋 1' 21.717
3	#15 笹原 右京 1' 21.731
14	#12 福住 仁嶺 1' 22.238 (Q1 敗退)



## ドライバー 福住 仁嶺 コメント

苦しい週末でした。チームは3シーズン目ですが、1台体制で、しかもドライバーが途中で変わったりもしたせいか、データも充分ではなく安定したパフォーマンスを出し切れない状況です。しかし、予選のタイムを見ると、僅差の接近戦なので順位は余り変わりませんが、着実に進歩はしています。第1戦は殆ど走れませんでした。第2戦では結果こそ出なかったもののロングランが出来たので、データを残すという意味では大きな成果があったと思います。ただレース自体はヘアピンや第3セクターなど、ダウンフォースをあまり使わないで走るセクションでメカニカルグリップが充分確保できず、苦しい走りが続きました。次の鈴鹿ラウンドに向けては、少しリスクをおかしてでも思い切った持ち込みセッティングをすることも考えています。自分からも積極的に提案をするつもりです。



## 監督 道上 龍 コメント

今年は福住選手がチームに来てくれて、トラックエンジニアを新井凌さんに任せ、伊与木さんは全体を見るという体制に変更しましたが、結局不本意な結果に終わりました。福住選手を持ってして今回のこの結果というのは、自分たちのクルマ作りに根本的な課題があることを示していると思います。残念なのは第1戦で追突されほとんど走れず、今年供給される新しい仕様のタイヤについてデータを得られないまま第2戦を迎えてしまったことです。第1戦で、もっと走れていればもう少し違うことが出来たと思います。次のレースに向けては、これまで速いクルマに乗ってきた福住選手の経験を中心にセッティングを根本的に見直して臨もうと思っています。



## チーフエンジニア 伊与木 仁 コメント

正直なところ、今のクルマは福住選手が求めるバランスにはなっていません。第2戦ではリアタイヤを守るためにフロントのダウンフォースを減らす方向で走らせたのですが、福住選手はバランスがフロント寄りになっていて、後半どんどんリヤがナーバスになったとフィードバックしています。一方で、ストレートのスピードはイマイチ伸びていませんでした。ストレートスピードを上げるためにはダウンフォースを削らなくてはなりませんが、そうするとリアタイヤが苦しくなっていくという悪循環にハマっています。1秒にあれだけのクルマが並ぶ拮抗したレースですから、わずかなことで決定的な差が付いてしまいます。次の鈴鹿は、全く違う方向からアプローチする必要があるでしょう。




## レース結果(第1戦)

Pos	No	Driver	Team	Time
1	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	58'25.743
2	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	58'31.366
3	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	58'32.460
4	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	58'45.139
5	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	58'48.031
6	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	58'58.094
7	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	58'59.734
8	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	59'01.036
9	53	佐藤蓮	TEAM GOH	59'01.318
10	55	三宅淳詞	TEAM GOH	59'09.419
11	3	山下健太	KONDO RACING	59'12.587
12	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	59'15.712
13	18	国本雄資	KCMG	59'16.933
14	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	59'20.082
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	59'25.305
16	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	59'32.207
17	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	59'32.749
18	7	小林可夢偉	KCMG	58'28.792
19	15	笹原右京	TEAM MUGEN	58'50.370
20	50	松下信治	B-Max Racing Team	58'40.320
DNF	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	



## レース結果(第2戦)

Pos	No	Driver	Team	Time
1	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	1:01'10.882
2	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	1:01'12.541
3	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:01'13.376
4	3	山下健太	KONDO RACING	1:01'25.924
5	55	三宅淳詞	TEAM GOH	1:01'26.721
6	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	1:01'29.088
7	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:01'41.969
8	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:01'45.930
9	7	小林可夢偉	KCMG	1:01'46.822
10	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1:01'47.220
11	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1:01'48.796
12	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	1:01'50.584
13	53	佐藤蓮	TEAM GOH	1:01'51.540
14	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	1:01'52.400
15	18	国本雄資	KCMG	1:01'54.224
16	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	1:02'12.353
17	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	1:02'03.525
18	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	1:02'08.978
19	50	松下信治	B-Max Racing Team	1:02'29.968
20	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	1:01'49.377
DNF	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	-



## Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	富士	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	野尻智紀	38	15	3+20								
2	平川亮	36	1+20	15								
3	宮田莉朋	19	6	2+11								
4	関口雄飛	13	8	5								
5	サッシャ・フェネストラズ	11	11									
6	山下健太	8		8								
7	三宅淳詞	7	1	6								
8	牧野任祐	5	5									
9	笹原右京	5	3(QF)	1+1								
10	大津弘樹	4		4								
∴												
	福住仁嶺											

\*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

## Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	鈴鹿	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	carenex TEAM IMPUL	48	28	20								
2	TEAM MUGEN	36	15	21								
3	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	20	6	14								
4	KONDO RACING	19	11	8								
5	TEAM GOH	9	3	6								
6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	9	5	4								
7	TCS NAKAJIMA RACING	4	4									
8	P.MU/CERUMO・INGING	3	3									
9	KCMG	2		2								
∴												
	ThreeBond Drago CORSE											

